

# 生理學上ヨリ見タル男性美

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-04<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/38161">http://hdl.handle.net/2297/38161</a>             |

(Fol. Haemat. Bd. 11. Theil 2. S. 170.)

6. Derselbe, Weitere kritische Ausführungen zum gegenwärtigen Stand der Plasmazellfrage (Virch. Arch. Bd. 159. 1902.)

7. Derselbe, Ueber Plasmazellen. (Zbl.-bl. f. allg. Path. Bd. 20. 1909.)

8. Derselbe, Die histologische Diagnose der Salpingitis gonorrhoea. (D. med. W.-schr. 1908.)

9. Coelen, Ueber Plasmazelle in den Nieren. (Virch. Arch. f. klinische Med. Bd. 211. H. 2. 1913.)

10. Fukushi, Ueber die pathologische Histologie der syphilitischen Aortitis mit besonderer Berücksichtigung des Vorkommens von Plasmazellen (Virch. Arch. Bd. 211. H. 3. 1913.)

11. Heubschmann, Das Verhalten der Plasmazellen in der Milz bei infektiösen Prozessen. (Deutsche pathologische Gesellschaft in Marburg. 1913.)

### ●生理學上ヨリ見タル男性美

東京慈惠醫學專門學校

醫學博士 生 沼 曹 六 (卒業)

#### ▲人體美ノ基本律

性美ノ觀念ハ人種ヤ國俗ヤ時代ノ傾向ヤ各人ノ嗜好ナドニ依ツテソレノ多少ノ差ヲ免レヌノデアアルガ、大體ニ於テハ略一定ノ標準ヲ立ツルコトガ出來ル。其第一ハ身體諸部ノ鈞合デアツテ、普ク學者間ニ認メラレテ居

ルフリツチニ氏ノ健康則ニ依ルト、脊柱ノ長サデ以テ身體諸部ノ長サヲ測ル基礎トシテ居ル、コノ脊柱ノ長サハ鼻ノ下緣(イ)カラ耻骨縫際ノ上緣(ロ)イテノ長サト相等シク、又コノ長サチ四分シタモノハ恰度鼻ノ下緣(イ)カラ顛頂(ハ)マデノ長サニ相當スル。仍チ前ノチ原尺トシ、後ノチ小原尺トシテ各部ノ測定ノ律ガ出來テ居ルノデアアル左右肩胛關節(ヘ)カラ(イ)點ヲ過ギテ兩直線ヲ引キ、更ニハ點カラソレト併行ニ兩直線ヲ引クトニ點ニ於テ相合シテ其處ニ正方形ガ出來ル、コレガ頭蓋ノ核テ其對角線ニ、ニハ即チ其幅ヲ示スモノデアアル。又ホ點カラ左右ノ肩胛關節(ヘ)マデノ距離ハ各右ノ一小原尺ニ合ハナケレバナラヌ。又ロ點カラ半小原尺ダケ左右ニ取ツタ長サ(ト)ハ即チ左右股關節間ノ距離デアアラネバナラヌ。又左右ノ肩胛關節(ヘ)ト各他ノ側ノ股關節(ト)トチ五ニ相結ビ付クル時ハ、其兩線ノ合スル所即チ點ガ臍ノ位置デアアラネバナラヌ、然ルニ往々之ニ合シナイ人ガアル。又ホ點カライ、ヘニ並行シタニ線ヲ引ク時ハ其線ハ前ノヘ、トノ線ト相交又スル所即チ左右ノリ點ハ乳嘴ノアルベキ位置デアアル。又肩カラ肱(ヌ)マデノ長サハ何レカ一方ノ肩カラ他ノ側ノ乳嘴マデノ長サニ等シク、肱カラ手首(ル)マデノ長サハ乳嘴カラ臍マデノ長サニ等シク、手首カラ先(ノ)長サハ臍カラ股關節マデノ長サニ等シク。又大臍ノ長サハ(ト)カラオマデ(ハ)或一方ノ側ノ股關節カラ他ノ一方ノ乳嘴マデニ等シク、下腿ノ長サハ(オ)カラワマデ(ハ)同側同志ノ股關節カラ乳嘴マデノ長サニ等シク、足(足袋ヲ穿ク部分)ノ高サハ殆ド半小原尺ニ等シイ。即チ上肢ヤ下肢ノ全長ハ(コ)、ニ擧ゲタ其各チ合シタモノデアアルノダガ、全體ノ身長(ハ)カラカマデ(ハ)小原尺ノ十倍三分ノ一若クハ十倍二分ノ一二等シイトナツ

テ居ル而シテ上半身ハ小原尺ノ五倍ニ當ルノダカラ小原尺ノ五倍三分一若クハ五倍二分一ガ下半身ニ當ル譯ニナル。

以上ハ專ラ西洋人ヲ標準トシテ見出シタ男女共通ノ健康ナ身長則デアツテ、古代希臘ノ美術ニ現ハレタ塑像ナドモ大抵コノ標準ニ一致シテ居ル。

即チ人體美ノ基本律ヲ此健康則ニ置イテ居ルノダガ、

日本人ハ坐居ノ關係カラテアルカ一般ニ下肢ガ短ク隨テ全身長モ短ク、又坐ツタ

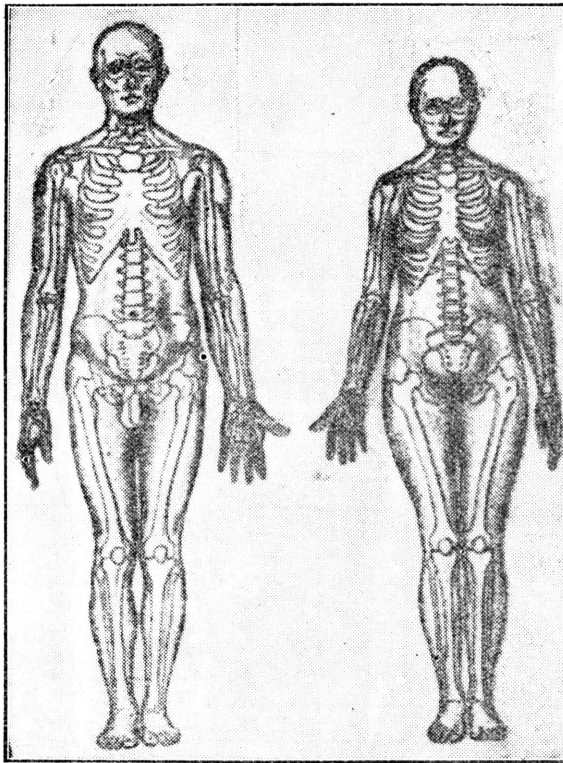
場合ノ美ノ標準觀念モ多少違ハザルヲ得マイト思フ。

現ニ日本人ニ對シテハコノ標準ノ小原尺ヲ少シク變ズルガ適當デアラウトノ説ヲ立テル人モアル。

次ニ又下肢ノ直ナ者デアレバ、兩方ノ踵ヲツケテ直立シタ場合ニハ大腿ノ上内側ト、膝關節ト腓腸部ト踵

ノ四ヶ所ニ於テ相合セネバナラヌノデアアルガ、日本人ニハ膝關節ノ觸レナイ者ガ頗ル多イ。又上肢ヲ延バシタ時ハコレモ直ナノガ正則デアアルガ、中間節ノ所テ反對ニ曲ル者ガ往々アル。之ハ女性ナラバサマテ外形ノ美ヲ損

正シク發育セル男  
(向ツテ左)ト女  
(向ツテ右)ノ比較



スルトモ限ラヌガ、男性ニ於テハ纖弱ノ感シチ起サシメテ美ノ觀念ヲ害フモノデアラウ。

次ニ男性ノ特色ハ筋肉ノ逞シイコトテ凡テ外形ノ輪廓ガ角張ツテ居ル。之ニ反シテ女性ハ皮下ノ脂肪ガ發達シテ居ルタメニ筋肉ノ隆起ガ男性ノ如ク明カテナク外形ガ一般ニ丸味ヲ帶ビテ居ル。又男性ノ肩幅ハ腰ノ幅ヨリモ廣イノガ特徴テ、婦人ハソノ反對デアアル、之ハ生殖機能ノ關係デアアル、其外女ニハ髯ハナイガ、男性ニハアルノガ普通テ且ツ男ヲシイ。陰毛ノ生ヘ方モ女ハ横ニ圓ク生ヘテ居ルガ男子ハ上方ニ生ヘ上ルノガ普通デアアル。

仍テ我々生理學者ノ立場カライヘバ、凡テコレヲノ標準律ニ最モ好ク適シタ者ハ即チ男性美ヲ具ヘタ者デアリ、反對ニコノ標準ニ遠ザカルモノホド外形美ノ範圍ヲ脫シテ醜惡ノ觀念ヲ起サシムルトイハネバナラヌ。蓋シ實體ヲ離レテハ性美ノ醜美醜チイフコトハ出來ヌ。

第九十九卷 第二號 四三

第九十七號 七

(原著及實驗)

▲生殖淘汰ト男性美

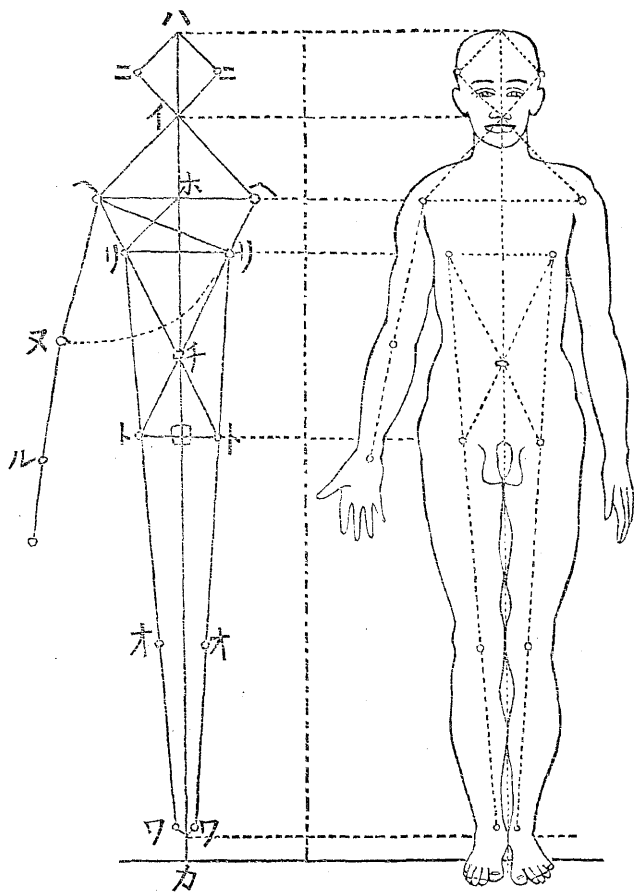
端的ニイヘバ女性ノ美ヲ最モ切實ニ感受スルモノハ男性デアアル。ソノ如ク又最モ切實ニ男性ノ美ヲ感受スルモノハ女性デアラナラヌ、否買ニ女性デアアル。ソレハ空想デアナイ、事實デアアル。

單ナル事實デハナクシテ生物學ノ證明スル進化ノ大事實デアアル。男性美モ女性美モカクシテ段々ニ今日ノ發達ヲ見タ。

姑ク動物ノ例ニ就テイフナラバ、鷄ヤ孔雀ヤ山鳥ヤ鴛鴦ナドノ羽ハ、何人ノ目ニモ著キ通り孰モ皆雄性ノ方ガ雌性ノソレニ比シテ遙ニ美シイ飾リヲ持ツテ居ル。鹿ノ角、獅子ノ鬚、蟬、蛙、鼠、鳥類ノ鳴キ聲、麝香鹿ノ香、螢ノ光等亦皆ソレト同ジク、或ハ雄性ニ限ツテ之ヲ具ヘ、或ハ雄性ニ

於テ特ニ發達シタ形状、色彩、音聲ヲ具ヘテ居ル。コレラノ凡テハ皆雄性ノ動物ガ雌性ノ性慾ヲ刺撃スルタメニ、一層語ヲ強メテイヘバ同族ノ雄ト

競争シテ雌ノ愛ヲ惹キツクルタメニ備ヘタ所ノ機關デアツテ、シカモソノ今日ノ發達ヲ見ルニ至ツタノハ、其刺撃ニ感應シタ雌ト生殖ノ目的ヲ達セ種族ヲ繁殖シタ間ニ遺傳シ發達シタ進化ノ產物ニ外ナラメノデ、即チ之ヲ生殖淘汰ノ結果トイフノデアアル。



繁殖シタ長イ人類ノ歴史ノ結果遂ニ今日ノ男性美ヲ見ルニ至ツタトイヒ得ルデアアル。

コノ故ニ男性美ト女性ノ愛トハ(女性美ト男性ノ愛モ亦)離ルベカラザル

人間ノ社會デハイロイ

ロ他ニ複雑シタ事情ガ錯

綜スルタメニ、其關係ハ

動物ノ如クニ單純デハナ

ク、隨ツテ又ソレホド嚴

密テナイ場合モアルガ。

シカモ他ノ事情ノ妨ゲナ

イ限リノ範圍ニ於テハ矢

張り同ジ關係ノ下ニ(殊

ニ人間ニハ動物ノ持タナ

イ美的觀賞力ニ富ンデ居

ルタメニ)女性ノ愛好ニ

適シタ男性美ガ選ハレ選

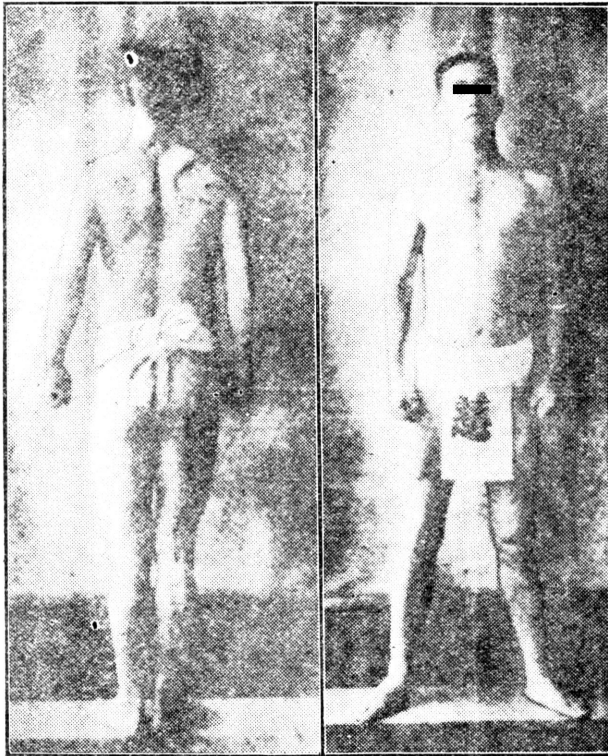
ハレテ、其子孫ヲ生殖シ

親密ノ關係アリトセネバナ  
ラヌ、更ニ一步ヲ進メテイ  
ヘバ兩性ノ愛ト性慾トハ離  
レ難キ關係ノアルモノデア  
ル。殊ニ兩性ヲ通ジテ相比  
較スルト、醜イ女ノ數ヨリ

モ醜イ男ノ數ノ方ガ遙ニ少  
イトハ何人モ認ムル事實デア  
アツテ、コノ事實ハヤガテ  
又男性ガ女性ヲ選擇シタヨ  
リモ、遙ニ嚴密ニ女性ガ男  
性ヲ選擇シタ性慾淘汰ノ結  
果デアルト斷言スルコトガ  
出來ル。言ヒ換レバ今日ニ  
現在セル男性ノ美ハ、即チ  
長イ人類ノ歴史ノ間ニ女性  
ガ選擇ニ撰擇シタ其結果ノ  
産物ナノデアアル。

重ネテ他ノ事實ヲ借リテ  
之ヲ證明スルナラバ、外形  
美ト直接ニ關係ナキ夫ノ音  
樂ノ如キモノサヘモ、其源

コハ慈惠院醫學校在學生中日本人トシテ優良ナル發育チナセリト認ムル者ノ寫  
眞ナリ。其年齡二十五歳、身長一六九種、胸圍九二種、體重六四、二庇ニシテ  
略ウイールガルト氏ノ算式  $\frac{胸圍 \times 胸圍}{身長}$  ニ該當ス。即チ身體ノ營  
養狀態ハ佳良ナリトイフベキモ、身體ノ權衡ニ至ツテハ身長ハ頭長ノ略七倍強  
ニシテ、西洋人ヲ標準トセル健康則ニハ當ラズ。又胴ノ長サ長キニ失シ、脚ハ  
輕度ノX狀チナセルチ主ナル缺點トス。



ハ遠ク猿類ノ雄ガ其雌ヲ呼ブ  
タメノ鳴聲カラ發達シタモノ  
デアルコトハ、夙ニ生物學者  
ノ唱フル所デアツテ、又現ニ  
進歩シタル我々人類ニ於テモ  
音樂ニ依テ切ナル愛情ヲ漏ス  
場合ハ常ニ其例ニ乏クナイ、  
寧ロ藝術ノ凡テハ性愛ノ權化  
デアリ發露デアルトマデ言ハ  
レテ居ル程デアアル。更ニ又肉  
體美ガ性慾ノ方面カラ發達シ  
タコトヲ證明スル一事實ハ、  
女子ノ乳房ニ對スル吾人ノ美  
感デアアル。アレハ元々『ヨク  
發達シタ乳房ハ最モヨキ乳汁  
ヲ分泌シテ最モヨク育兒ニ適  
スルモノデアアル』トイフ觀念  
ガ、遂ニ吾人ニ美感ヲ懷カシ  
ムルニ至ツタノデアツテ、他  
ノ肉體美モ亦皆ソノ如ク性慾  
ガ基礎トナツテ發達シタモノ  
デアルトヲ信ズル。

▲男性美發揮ノ時期

既ニ以上ノ如ク性慾ガ重ナル原因トナツテ男性美ガ今日ノ發達シタモノデアリトスルナラバ、其男性美ノ發揮シ初ムル時期、又其頂點ニ達スル時期、若クハ凋落ノ時期ノ如キモ皆性慾ノ自然ト相關聯スルモノデアルコトハ疑ヲ容レナイ。即チ男子十六七歳ノ頃ヨリ漸ク發展シ始メテ、凡ソ三十歳ノ頃其頂點ニ達シ、ソレヨリ徐々ニ衰退スルモノト認メラレル。而シテ之ヲ女子ニ比スルナラバ發展ノ時期モ、頂上ニ達スル時モ、完成スル時モ、衰退スル時モ皆遅ク且ツ久シト見ルベキモノデアラウ。

●膀胱乳嘴腫ニ就テ

Über Blasenpapillom.

新潟醫學專門學校第二外科教室(主任杉村教授)

助手 川上 操 一 (卒業)

膀胱腫瘍ハ從來稀有ニ屬シ、ガレルト Guller 氏ノ統計ニヨレバ全腫瘍中ノ〇・三九%ヲ占メ、キエスター Koster 氏ニ從ヘバ〇・七六%ニ當ルト云フ(6)。然ルニ今ヨリ凡三十有餘年前、ニーチェ Niche 氏ガ膀胱鏡ヲ發明シ之ヲ實地ニ應用シテ以來、膀胱腫瘍ノ診斷モ愈々的確ナルニ至リ、其例證ノ報告モ從テ益々多キヲ加フルニ至レリ、即チポーゾナー Posner 氏ノ説ニヨレバ膀胱腫瘍ハ、泌尿疾患ノ大凡三%ニ及ビ其數膀胱結石ト伯仲ノ間ニ在リト云フ(7)。而シテ膀胱腫瘍中殊ニ良性タル乳嘴腫ノ割合ヲ見ルニ、ニーチェ 氏ハ二百七十一例ノ膀胱腫瘍ニ就キ、組織的検査ヲ遂ゲタルニ、其

中百七十七ハ良性腫瘍ニ屬シ殊ニ其百七十八乳嘴腫ナリシヨ、然ルニアルバライン Albarain 氏ニヨレバ全數八十八例ノ原發膀胱腫瘍中六十八例ハ癌腫ニシテ、十三例ノミ良性ノ乳嘴腫ナリシト云フ(11及1第一六五頁)、又予ガ調査シ得タル所ニヨレバ、本邦ニ於テ明治二十九年以降今日迄十七年間ニ報告セラレタル膀胱腫瘍二十六例中十七例ハ癌腫、七例ハ乳嘴腫ニシテ、其他腺腫性癌腫一例、肉腫一例ナリ、今此内乳嘴腫ニ屬スルモノ(15及16)ノミヲ擧グレバ次ノ如シ

| 報告者    | 患者<br>及性 | 年齢    | 腫瘍   | 位置    | 主          | 徵    | 手術 |
|--------|----------|-------|------|-------|------------|------|----|
| 鶴田頑次郎氏 | 某        | 男五六   | 孤立性  | 後壁右側  | 血尿、尿意頻促、排  | 高位切開 |    |
| 阿久津三郎氏 | 某        | 女六〇   | 孤立性  | 輸尿管口  | 尿時疼痛、排尿時疼  | 尿道切開 |    |
| 同      | 同        | 原田女六三 | 多發性  | 膀胱頸部  | 尿閉、膀胱部ノ疼痛  | 尿道切開 |    |
| 同      | 同        | 岩立女五五 | 多發性  | 膀胱頸部  | 尿意頻促、排尿時疼  | 手術   |    |
| 同      | 同        | 岡 男五八 | 孤立性  | 膀胱底右側 | 血尿         | 高位切開 |    |
| 同      | 同        | 某 男五九 | 孤立性  | 膀胱頸部  | 血尿尿閉、疼痛及尿  | 不手術  |    |
| 中野 等氏  | 山崎男六六    | 多發性   | 膀胱後壁 | 膀胱結石  | 排尿困難、尿線中絶、 | 會陰切開 |    |

予ハ最近新潟醫學專門學校第二外科教室ニ於テ、高度ノ血尿ノ結果尿閉ヲ起セル一患者ニ就キ膀胱鏡検査ヲ行ヒテ、其膀胱乳嘴腫ニ因ルヲ確カメ後之ガ摘出ヲ行ヒタル一例ヲ經驗セルヲ以テ、茲ニ之ヲ報告シ聊カ蛇足ヲ添フル所アラントス

實驗例

荒木 某 六十七年 男  
既往症 何等遺傳ノ徵スベキモノナリ、二十歳ノ時麻疹ニ罹レリ、淋病、